花鳥畫一幀四明孝辰の筆　花鳥畫一幀興都王繼猷の筆
山水畫一幀自讃あり俱に蓋其昌の筆　紺紙金泥心經嵯峨天皇の震筆
天滿宮影一鋪自筆　佐々木高綱影一鋪自筆
傳來佛舍利青白色なり毛利元就納む　茶碗利休銘あさひ山
茶入村雲

清涼院

本堂桁七間梁五間
本尊阿彌陀如來
運慶の作嘉暦年中靈夢に依て當國那賀郡小倉庄滿屋村天滿寺の本尊を當寺に迎移し今に彼村より當時の本尊を修補す
護摩堂本尊不動明王覺鑁上人の作　辨財天弘法大師の作
內道場本尊大日如來古へ地蔵堂の本尊なり
僧坊桁十六間梁十間　玄關方二間
表門長屋造り　通用門表門と同棟
中門二箇所　數寄屋一箇所
倉庫二箇所　鎮守社稲荷大明神
開基理源大師第二世一定律師僧姓を知らず天慶八年寂す　來由實相院に全同せり

龍池院

本堂桁五間梁三間半　本尊阿彌陀如來源心僧都の作
護摩堂不動明王願行上人の作
內道場本尊地藏菩薩巷日の作
太元明王
播磨守平忠盛の隨依渡からす島子清盛樂登ありしとき當寺に宿りを成して眞言陀羅尼等を受られ平家に秘藏せる處の明王を奉納し藝州瀬野の莊を寄附賜り年々貢ありしかとも福島左衛門尉政則藝州の司となりてより其事止ぬ
僧坊桁十三間半梁八間半　鐘樓方二間
表門長屋造り　鎮守社辨財天

什物

十種神寶一袖井口決あり俱に弘法大師の筆大師より眞雅僧正に傳ふ僧正是を源仁に傳ふ仁又理源に傳ふ理當院に傳へて代々珍藏す
意教上人影一鋪自筆
紺紙金泥法花經全部八袖慶長三戊戌年井伊直政寄附す
寒山拾得畫一幀狩野吉法眼の筆　花鳥畫一幀探幽の筆
屏風一雙雲谷等與の筆　書翰國紀君の筆
末寺泉州島取庄下出村極樂寺　同同村延命寺
同同庄黑田村觀音寺　同同庄波有平村藥師寺

倉庫

開基理源大師第二世一定律師　來由實相院に全同せり

龍泉院

本堂桁五間梁四間　本尊藥師如來運慶の作
護摩堂本尊不動明王　毘沙門天弘法大師の作
內道場本尊如意輪觀音天竺の金佛　大黑天傳教大師の作
十一面觀音惠心僧都の作
僧坊桁十三間半梁七間半　表門長家造り
通用門表門と同棟　中門

開基眞慶律師理源大師の法資なり正平二年寂　中興賴賢僧正來由實相院に全同なり

末寺備後國御調郡三原村　奥藏院

法雲院

本堂桁五間梁四間半　本尊阿彌陀如來
護摩堂本尊不動明王弘法大師の作
內道場本尊弘法大師
僧坊桁十二間半梁七間　門
倉庫
開基道憲法師理源大師の附法の資なり　中興賴賢僧正來由實相院に全同せり

什物

布袋一幀一休の筆　三幅物守僧同子島守政（十一歳）舍弟守定（九歳）の筆
末寺泉州春木川村地藏寺

湯屋谷

善壽院

本堂本尊阿彌陀如來

護摩堂本尊不動明王

内道場本尊弘法大師

僧　坊　桁十間半　梁五間半　　玄　關　方一間半

倉　庫　二箇所　　門　長屋造り

開基法藏僧都　一定律師の附法　安和二年入寂　中興快尊僧正は熊野入鹿の後胤なり建保三年登山し同五年夏戒壇

證菩提院　今は廢ヒす

如來堂

相應院

本堂本尊阿彌陀如來

黄金繪像なり此如來の因由を尋るに　聖德太子御造し給ひて信州善光寺に安置ありしに或時水内郡横田川原形部太輔に告て曰く汝の馬を以て我を高野に送るへしと繪者新たなるに依て形容悉書し則當院に送り來る其馬忽ち馬頭觀音と化現すとなり今門前の鐵阿是なり故此地を如來堂といふ委しくは善光寺緣起に見へたり

護摩堂本尊不動明王

内道場本尊弘法大師

僧　坊　桁十三間　梁五間半　　門

倉　庫　二箇所　　鎮守社　馬頭觀音

開基觀弘僧都　俗姓知らす

林仙院

本堂本尊阿彌陀如來

護摩堂本尊不動明王

内道場本尊弘法大師

僧　坊　桁十三間　梁七間半　　玄　關

倉　庫　　門

開基詳ならす　中興永林阿遮梨　遍智院義範僧正の法孫なり

往生院谷

蓮花寺　米の道場といふ當山八葉の其一葉なる故に冒いふ

本堂本尊綱引觀音

永仁年中武藏の國主逝世して當院に住し忍阿上人と號す一時八月十五日觀法座講しけるに正しく高野明神影向ありて告て曰く汝讃州綱寺に行て五色の舍利十一面觀音を求覓すへしと上人神告に隨ひ彼地に到り觀音并に舍利を得て當寺に安置す其傳を按するに弘法大師入唐の時自ら彫刻ありて持念し給ふ繪像なり或日暴風逆浪の時綱を取りて難を救ひ給ふとかや依て世に綱引の觀音と稱す

護摩堂本尊不動明王

内道場本尊五色舍利　緣起前に見へたり

僧　坊　桁七間　梁五間　　門

倉　庫　　鎮守社　高野明神

開基青蓮上人　第二葉性信親王　後ち瀧蓮院に轉住す

什　物

涅槃像　一幅蘇漢匠の筆　　弘法大師有髮影　一軸自筆

西谷

菩提心院（又は月上院といふ今二名ともに此地の號となる）　嵯峨帝第二の皇子建立し給ひて後熊野權本豐前守再建す

大師堂（世に日輪大師といふ）　嵯峨帝第二の皇子建立し給ふ

阿彌陀堂（美福門院建立し給ふ）　經堂（上に同し）

灌頂堂（齊高僧都叛し成賢僧正再建）　陵（美福門院の尊棺を納む）

閼伽井（天文寛永寛安三箇度堂宇燒失し今舊跡のみ殘れり本尊及ひ法具高貴の尊牌等四箇院配當して守護す）

鎮守社

八幡宮なり弘法大師入唐の時豐前國宇佐八幡宮に誓願ありしに彌陀の名號光を放ち船に現す大師則ち舟板に寫し給ふ故に舟板の名號と稱す又は舟板八幡ともいふ

此地は弘法大師日輪觀を修せし靈場なり其妻像を道與大師彫刻ありて後世に殘せり其後　嵯峨帝第二の皇子深く信仰し給ひて大師堂幷に十二の坊舍を造立なさしめ給ふ又如意の尼は常に阿彌陀如來を信仰まし〳〵て弘仁年中尊像を弘法大師に乞せ給ひけれは則畫して尼に授けしかは彌信仰淺からす禁中の秘藏と成りしとかや天承の頃　美福門院堂宇を再建し彼の彌陀の尊像を安し給ひ　門院薨御の後尊棺を分ちて此院に納めしめ給ふ其時の歌に

俊成卿

遠くれ井て思ひやるこそ悲しけれ
高野の山のけふの御幸は
尊棺の菩提心院に渡らせ給ふを拜して

西行

けふや君思ふ五つの雲はれて
心の月のうてな出らむ

又濟高僧都者　勅有りて東寺の長者に補せられ當院に住し蓮花院（今の大慈院なり）を兼接し此谷の數箇寺を再建ありて故に僧都を以て此塔中の中興とす

聖衆來迎院

本尊（堂方五間）　本尊聖觀音（聖德太子の作）　佛舍利一粒

護摩堂本尊不動明王（智證大師の作）　能作性一顆

開基濟高僧都は延喜六年十二月晦日當山の座主に補せられ第二世貞譽律師天慶七年六月二十一日同しく座主に任す第三世雅慶大僧正長德四年九月十七日同しく座主に任す以上二師は勸修寺宮に住し當院を兼接す第四世濟信大僧正俗姓左大臣源雅信公の息なり仁和寺別當にして此院に住す依て此院の僧正と號す長和元年十月勸修寺の長吏に補せられ同年二月當山の座主に任す治安三年五月當院に入住し同十月奥院廟前に初て拜殿（桁四間梁三間）幷に橋を造營し萬壽四年三月二十一日迄毎日奥院に參籠し拜殿に於て秘法を修せらる同四月勸修寺に歸る長元三年六月十一日遷化す齡七十八在住四年なり五世深覺大僧正長元八年同しく座主に任す寛德元年九月十四日入寂在山六年なり六世信覺大僧正は東寺の長者法務を兼七世嚴覺大僧正八世寛信法印（同上）九世雅寶大僧都以上四世は勸修寺に住して當院を兼帶す第十世成寶大僧正は當山の座主に補せられ承久三年三月當院に入住し司職たり

高倉法皇御願に依て奥院に於て長日舍利講を始行す當國神野眞國の庄を以て僧正の用途に宛て行はる（宣旨今に存在し大慈院に秘藏す）專ら山徒に法儀を傳ふ故に峯寺僧正と稱す安貞元年十二月十七日遷化す石棺を　美福門院陵の側はらに葬り廟碑を彫建す堂舍及ひ僧坊慶安の回錄に羅り今に再建ならす本尊幷に座主の尊牌等四箇院輪番に守護し供養す

不動院

本　堂（桁六間梁四間）

本尊不動明王（弘法大師の作傳に曰く承和二年不動地藏二尊を彫刻ありて不動尊は當院に納め地藏尊は小坂坊に安置し給ふとなり）

護摩堂本尊愛染明王

內道場本尊弘法大師

僧　坊（桁十三間梁八間）　玄　關

表　門　通用門（長屋造り）

倉　庫

開基濟高大僧都（來由來迎院に見へたり）

什　物

弘法大師等身影

嵯峨帝の　勅に依て眞雅僧正の染筆なり前大僧正快賢當院に隱遁の時納められたり其後勸修寺寬海大僧正の命に依て慈尊院眞昭僧正登山修補せられける

佛舍利（小野篁寄附）　大般若經（弘法大師の筆冊六行）

附法記（勸修寺宮雅賢僧正より傳ふ）

出世願不動尊（平清盛六位に在す時夢中に現し給ひ頂の血を以て寫せし靈尊なり）

震　翰（後光明院）

和　歌（一卷行基傳教弘法智證玄賓佛國四行空也高辨寂慈慶經門以上十一人の筆）

色　紙（二紙一軸定家卿の筆）　不動劍（伊勢三郎の息小鹽一丸寄附）

屏　風一雙晉庭の筆

末　寺丹州桑田郡松尾村成願寺　同上吉田村摠持院

同板橋村遍照寺

妙法院

本　堂桁五間梁三間　本尊大日如來

護摩堂本尊不動明王

内道場本尊弘法大師

僧　坊桁十二間梁七間半　表　門長屋造り

通用門上に同し

開基濟高大僧都因由來迎院に見ゆ

什　物

辨財天弘法大師の筆　裝幾褐紅錦　紺紙紺泥心經道興大師の筆

色　紙近衛信尹公の筆

松雲院

本　堂桁五間梁三間　本尊阿彌陀如來春日の作

護摩堂本尊不動明王

内道場本尊弘法大師

僧　坊桁十三間梁七間半　表　門長屋造り

通用門上に同し　倉　庫

開基濟高大僧都因由來迎院に見へたり

什　物

荒　神一軸弘法大師の筆　弘法大師影一幅俱知親王の筆

出山釋迦一幅兆典主の筆　墨　韮三幅芝三成の筆

逆歌抄宗祇の筆　七種逆歌飛鳥井宗世の筆

末　寺丹州舟井郡東又村松岩寺　同水原村神宮寺

同和州吉野郡湯川村不動院

吉祥院

本　堂桁六間梁三間　本尊阿彌陀如來

護摩堂本尊不動明王

内道場本尊吉祥天運慶の作　弘法大師

僧　坊桁十二間梁六間半　表　門

通用門　倉　庫

開基濟高大僧都由緒來迎院に見へたり

末　寺和州吉野郡四川村仙龍寺

理趣院今は廢亡す

阿彌陀院上に同し

善性院上に同し

戒光院上に同し

大寶院上に同し

最光院上に同し

勅願所後深草山安養寺成佛院壹堂といふ地藏なり今此塔中に七間院あり

本　堂方五間今は假堂方二間

本尊千手觀音秘印に住す天竺圓浮檀金の御像御長一寸八歩　同前佛作知らす生身のごとく言語ありし尊像なり

御影堂方三間なり弘法大師の影　眞如親王の筆　前　佛作知らす

多寶塔方三間二重の塔なり正德三年炎上しいまた再建ならす今礎のみなり

本尊金剛界大日如來弘法大師の作　閼伽井

鎮守三社四所（丹生氣比高野駿馬明神春日大明神天滿天神）　經　堂一間六方なり

護摩堂方三間　本尊不動明王作知らす

橋欄干附き　鐘樓門

庫　藏方二間　摠　門唐門鳳凰龍龜の彫工左甚五郎

遠　池

正嘉二年飢饉なりけれは此池の蓮根を掘りて飢人に施す其時本尊觀音の左の御手矣させ給ふに此池中より掘出せり諸人奇異の眉をひそめて尊みけり其以來今に到りて此塔中に蓮根を食する事かたく禁す

小　岡東西五間南北二十間高さ四間なり是則上品上生の蓮臺形の蓮を納めたる石函を掘出せし地なり今の鎮守社の處是なり

近衛家靈碑地藏門の内東方にあり代々の尊牌なり　鉦鼓ケ芝因一間程の四芝なり因由奥に見へたり

開基俗姓知らす中興圓慶阿遮梨性隱逸にして風塵を厭ひ交友を絶し斯に居住して密乘を薫練す一夕縉紳の偉人來て告て曰く此地は前佛の聖跡後賢の興起なり今卿一ら成佛を志さは當に成佛院と名へくし我は是高野明神なりと因て成佛院と名つく唯五の室谷の明寂上人と相好し又晃鑁上人に謁して談話月輪觀に暨ふ上人の曰く行者の信心諸佛の大悲愍此圓明にありて師の曰く今日心地洞徹の觀念射的せり全く鑁公の力に憑るのみと保元元年八月十七日朝より食せす夕に及て端坐合掌して俄爾として化す時に慶の門に苅萱道心と云ものあり姓は藤原名は重氏筑前州苅萱莊の人なり仁平中に年市二十一にして忽ち世理の無常を觀し潛に當山に攀て慶の門に入て薙染し圓空と名く世呼て苅萱道心といふ因て今此地を壹堂といふ婦及ひ世子石堂麿慕ひ追て當山に登り來る然るに女人禁する地なれは婦は麓なる學文路村に居て哀傷止すして病死す麿は父に從て落髮して道念と名く上人掩化の後圓空は善光寺の彌陀を慕ふて信州に往く草庵を結ひ念佛す道念も又彼州に往と云云第二世行慶律師者姓は中山氏洛陽の產なり圓慶を師とし事ふ常に臥寢せす夜燈を燃さす口に毘盧の五字を絶さす長寛元癸未四月五日坐なから化す第五世

昭玄は土州吾川郡香椎山郷の人なり姓は藤枝氏父は源家の門族にて平治の亂に洛陽に戦死す時に師三歳なり又十二歳にして母を喪ふ乃ち隣邑の正源寺玄拾に從て承安元年十五歳にして落髪し名て理正と云安元元年十九歳にして薗城寺に入て衣を台敎に染て心を止觀に凝す治承四年兵火に罹る是に於て此山に潛て灌頂を道慶に受て改て昭玄と名く一日示すに心自證心自覺心の文を以てす此文を聆て心地自ら開悟す因て覺心と稱す建暦二年源空上人に謁して心自覺心の文を以て談話す空稱嘆するに輟す乃ち一軸を附せらる其詞に曰く　嵯峨皇帝崩御の時弘法大師書し給ふ所の十遍（十遍は十念の義なり大師曰く十念は十波羅密成就の義なりと）名號是なりと玄の悟心を感して副書二榜と倶に附與す（今常慶院に傳持せり）建保六年六月五日化す第六世法燈圓明國師姓は常澄氏信州神林縣の人なり母常に子なきを悲みて戸隱の觀音を祈る一夜夢に大士の右の手にて燈を授くと覺て娠ことあり承元元丁卯年誕生幼にして群兒と遊はす年甫十五にして郡の神宮寺に入て薙染し貞元乙酉二十九にして東大寺に到る登壇受戒し作法灌頂を受く三月十八日當嶽に登り玄の室に入て秘密灌頂を受く又金剛三昧院の行勇（建仁寺千光の上足）に謁して粗教外の旨を受く傳法院覺佛阿遮

梨に遇て愈密敎を研く四十二にして甲州心行寺に寄偶し一夏床に宴坐す一夕定中に胸間より許多の小蛇を捉出すと出定の後心氣明朗なり建長元年四十三にして紀州由良の濱より船を發して入宋し覺儀觀明等と錫を飛して名薗勝地を禮す適本邦の源心に値て明師を問ふ心の曰く無門和尚は一世の棟梁なり往て禮すへし即ち率て護國の無門に抵る門の云我這裏は無門なり何れの處より入るや對て曰く乃ち無門の處より入る門の曰く汝の號は何そ對て曰く覺心なり門即ち偈を示して曰く心即是佛佛即是心心佛如如古へに亘り今に亘ると遂に辭し去るに及て對語祿と法衣を與ふ歸船を浮ふるに難風帆を漫す時に宋より受來る觀音の小像あり衆と倶に一心に唱名す忽ち月輪檣の頭に現し上下すること再三風濤頓に息て難を免かる同六甲寅年當院に歸る明年禪定院（金剛三昧院別院）勇擢て丶席主とす康元丙辰年　後深草院の叡願を銜んて近衛藤相國の命に依て堂宇を剏建し宋國より持來れる西笠の錫像を本尊とす（此尊の靈異込衛樓の禪問の聽に達せし故なり）前佛者西光院に傳持せし千手觀音を安置す此像は一時師西光院に往て觀音二像在りけるを請て曰く願くは大師の眞刻を與へよと主諾す明日是を送り來て曰く昨日の請に應すと師の曰く此像は

定て大師の作ならむ對て曰く爾り像勃然として曰く我は大師の作にあらすと主懺謝して曰く予實に言を負り常に眞作を奉るへしと師の曰く言有の像實に是生身の大士なりとて乃ち安置せり初め基趾を平くる處に一の石函を得たり是を披けは上品上生といふ琵琶形の文字燦然として存せり遂に天聽に達して上品上生の石額と覺心上人の永宣旨を下し賜ふ（并に是藤相國の奏達に依てなり）故に安養寺と號す同年書を彼の無門禪師に呈するに水晶の念珠を附す則ち同書に曰く百八の摩尼顆々圓なり遊天に鼻孔一齊に穿つ恒河沙數の佛菩薩毎日呼來て一圈に跳らしむと云云又紀の由良の鷲峯に遊んて閑寂を愛す此山に妖鬼あり師到の日是を降して爲に五戒を授く文應元庚申の祀熊野妙法山に詣するに白日に星見えて祥雲峯に横たはる弘安元戊寅紀州野上の莊の八幡宮木工の女子に託して師を召く住て問對すること十數語其中に經論の疑しきを擧るに神一々部折して示誨肝に銘す同辛巳　禪林上皇詔書再三して洛東の勝林寺に居せしめ時々召して法要を探り給ふ然れとも喧雜を厭ひて潛に南紀に歸る同乙未花山の藤の師樹妙光寺を建て師を居せしむ　天皇優禮懇請し給ふ奏對なり又潛に南に歸る正應四辛卯衆の爲に說法す時に白青空に雷鳴震動す寶珠一顆鷲峯（紀の由良の山なり）東南の嶺に墮つ則ち埋て山門の鎭とす因て紀の國造淑文（日前宮の神主なり）雨珠記を作れり永仁六戊戌十月十三日疾なく人と語すること常の如くにして泊然として逝す八箇日其貌ち生るか如く故に棺を留む且五色の舍利を得たり壽九十二法臘六十四也一條禪閤の和歌に

　　誠かや尊ときことのかす〳〵を
　　たかの丶山に盡せりときく

又國師の門弟に千手上人といふあり俗姓は那須野名は親張奥州の人なり代武官たり長して清水谷一齋に從ふて史書を讀氣稟豪俠にして武術敵なし康元元丙申年三十六にして熊野那智山に詣て花藏院に宿す院に小童あり進止鄙しからす一度見て中心痛ひこと有か如し兒も亦去らす卒爾に問ふ院主答て曰く吾先に妹有り洛に往て官女となる彼れ密に相知るものあり那須の七郎親張といふ已して姙めり其夫の曰く吾生國に歸らひとす必人をして迎ふへしと三年を經れとも終に信なし彼れ病て死す兒孤露にして遇へきなし予これを養育す今年十二なりと聞て哀涙禁せす曰く吾は其父なりと則ち家臣に命して曰く明日此兒を將ゐて州に返り宜く家系

を嗣しむへしと其終夜亡婦を懐ひ又世榮を厭ふの志を發す夢に神人來て告て言く汝前生に佛緣あり正に今宿善開發の時なり早く道に入て佛門を弘通すへしと覺て感喜骨に徹す則ち髻を絶て兒の枕の頭に棄て徑ちに高野に攀り覺心を拜して師とし三月十八日に薙染し慈忍と號く密教を受學し兩部灌頂印可を受り又行勇闍梨に謁して禪密二教を研し兼て念佛門を修す正安二年四月二十八日多寶塔を落慶す塔の本尊金剛界大日如來は東寺增長院重圓僧正より附する所則ち大師の眞刻なり曾て般若三昧を修するに其行道の影池水に現す則千手觀音なり人多くこれを見る故に世呼て千手上人といふ徒衆の曰く千手院谷觀音は傳へ聞ふ大師より三百年已前に此地に在り今堂宇廢頽す師是を能善すへしと即ち彼地に移りて中興す明年二月十八日堂宇成る院を號して本願といふ同四年四月十五日化す庶元中國師上都より山に歸るの日忍の閑を愛して茅屋に禪を修す事を見て莞爾として吟あり

法燈國師

おのりから心はすむり身は住り
茅ゐまゐゐ此有あけの月

返し

慈忍

おれりから心もすます身も澄ます
茅ゐ下葉の露の月影

第十葉大阿遮梨曾眼者　醍醐後帝第十七の皇子近衛家衡公の猶子なり文和二癸巳年甫十二にして世の動亂を避て潛て登山して達玄闍梨の門に薙髮す從者唯二人のみ其餘人敢て知るものなし藤公より〳〵存問を通す十四にして師の顧命に依て寺職を主る十六にして金剛界の加行を始む奥院に詣して看經の間夢に廟戸忽ちに開けて大師告て曰く饑渴の衆生の爲に卿茶湯を供し給へと四面を仰瞻るに諸佛雲聚し己身の所在を知らす頃刻ありて覺たり維時延文二年五月朔日なり爾來毎月朔日より五日に至るまて茶湯を當院より供す以て恒式とす二十一歳にして密嚴院覺深遮梨に灌頂を受け三十二にして大日經を講す一山傾き聽く性苦修に堪たり終に至るまて誓て山を出す應永二十癸巳二月八日薨す齡七十一法夏六十なり第十九代明淳に至まて代々覺心上人の號を繼く且恒例として山内乘輿し色衣を著す慶長十五年に至て停ぬ

什物

和歌　一軸陽光帝宸筆
勅願　後深草帝の勅なり
般若心經　一軸近衛家久公の筆
祈願文　一紙同筆
卓　圓唐樹なり同家寄附
詩　一軸後深草帝宸筆
和歌　一軸近衛准三后の筆
同　經藏樂院准后の筆
香　爐　烏形なり近衛家寄附
袍　近衛大將殿院の服
飛鉦鼓

其實は聖なり法燈國師熊野に詣し神殿に通夜し祈念するに定中に神親手ら是を授けらる一時洛東勝林寺に殘し置て當院に跨るに奇なる哉情ゆ有か如し師九遍ひ空を飛來て本堂の側（今の鉦鼓の芝是なり）に落て光りを放つ人共神なるを感して飛鉦鼓といふ

法衣　法燈國師宋より持來
袈裟　上に同し
念珠　上に同し
高野記　一卷三藏院
勸進帳　仁和寺道永親王の筆
弘法大師背委影　上に自筆の北字あり
千手觀音不動尊地藏尊　一幅澤所の筆
白衣觀音　一軸如圭の筆
龍虎畫　二幅對如圭の筆
龍紬　一軸隈所翁の筆

密嚴院

本堂　桁五間梁四間　本尊金剛界大日如來弘法大師の作

紀伊續風土記高野山之部　聖方　四谷

不動明王　興教大師の作
護摩堂本尊不動明王　往古東寺西の院本尊なり興教大師の作
內道場本尊多聞天　興教大師の作
興教大師水鏡像

東府護持院より納む其書に曰く密嚴院者興教大師修練之靈場也是以命京師佛工模寫水鏡之尊影寄澄洛四隱樓僧正專戒加修點眼以寄附之唯願僧將法樂而已寶永三歳丙戌孟秋十有二日江城護持院僧祿前大僧正法印大和尚位隆光寶永三丙戌仲冬吉旦點眼加持了智積院中興第十世退隱僧正專戒印

僧坊　桁十五間梁八間
玄關
門
倉庫　二箇所
鎮守社　稻荷大明神興教大師勸請す今此所を稻荷段といふ
開基堂　方二間
覺鍵池

上人終りを入定に期せんとするに寺徒其始組に配するを厭んて是を留せんとして上人か貴む上人逃れんと欲して此池中に入龍生院の龍池へ出しとなり故に故に覺鍵池といふ

開基興教大師字は正覺名は覺鍵當院に住する故に密嚴上人と號す肥前州の人なり伊佐氏平兼元の息幼名は彌千歳丸嬉戲神佛を禮す天永元庚寅十月十六日年十六にして薙染し仁和寺成就院大僧正を拜して受戒す一夜夢に貴婦人來り頂を摩て曰く他山に於て大に密教を興さん我汝を擁護すへし吾は春日明神也と又異僧來て告て曰く早く我山に來るへしと

弘法の靈夢に因て高野山住棲の志頻りにして永久二甲午十二月晦日年甫二十にして西郊仁和寺を辭して此山に到り高野大師の廟を拜するに定中に高祖現して曰汝當山に來り敎法を興し智燈を挑こと我先に知る早く志を達すへし正覺感喜し明寂上人に從て秘密灌頂等を受し大治五年伽藍建立の願を發して　帝に奏せんとす嚮に　鳥羽帝御惱の時潛に弘法大師に祈ことあり御夢に一人の沙門南方より來り手に柳枝を執て香水を灌くと忽ち　御惱差たり鍐の門宮に入るを　御覽あるに其儀相全く夢の僧に同し其來る所南山なるを以て　叡信日を追て熾なり又　御夢に白蓮殿中の菜の處に生すると其後　詔に應して鍐昇殿するに彼白蓮の生せし處に坐す　叡感彌深し大治五年　勅を下して當院を創建せしむ四月八日落成す紀州應賀の莊一萬石を附せらる　勅して大傳法院を建立せしむ則三十六院の學所にして大傳法會を設く此時高野兩派に分つ（密厳院の門徒を傳法院方といひ其他の衆徒を金剛峯寺方といふ）然るに覺卓絶の德たるに依て　勅して兩座主を兼しむ寺徒其兩座主たるを憎み傳法院の學法盛なるを嫉んて覺を退けんと鼓噪す趨て堂に入るに覺を見すして只不動尊二像あり寺徒相議して一像は必覺ならむと錐を以て是を刺に血流出たり故に覺なりとして拘へ去るに覺にあらすして不動の像なり（世に錐も不動と云根來山にあり）寺徒神奇を見て感服す又信貴山に詣して菩提心堅固の祈願をなすに毘沙門天形を現して寶珠三顆を授く其後根來山に大伽藍を建立す行狀元享釋書本朝高僧傳等諸記に委悉なり依て今略す康治二癸亥十二年十二日寂す齡四十九興敎大師と謚す

什物

白衣五大尊（一幅弘法大師の筆）　不動曼荼羅（一幅弘法大師の筆）
愛染明王（一幅弘法大師の筆）　能作性珠（一顆興敎大師の作）
俱利迦羅不動兩童子（三幅對密敎上人の筆）
弘法大師影（五智坊融源僧都の筆）
興敎大師影（一幅座禪の容容を自ら命して畫せしむ上に詠あり融源僧都の筆）
般若心經（弘法大師の筆）　同　經（清涼殿王の筆）
三社詫宣（近衛三殿院の筆）　扇　面（和歌同筆）
屏　風（二雙詩歌同筆）
淨土曼荼羅
天平寶字七癸卯六月二十三日中將姬（大納言藤佩の女）のために神女來て蓮の糸を以て是を織る興敎大師の所持中將姬の歌に
暮羽鳥あやしく思ふ極樂を
ありあらはして誠をそみる

福生院
本堂本尊大日如來（春日の作）
護摩堂本尊不動明王（興敎大師の作）
內道場本尊弘法大師
僧　坊（桁十二間　梁八間）　門
倉　庫　鎭守社（稻荷大明神）
開基兼海僧都（興敎大師の入室なり）

壽歡院
本堂本尊無量壽如來（行基の作）
護摩堂本尊愛染明王
內道場本尊弘法大師
僧　坊（桁十二間　梁七間）　門
倉　庫　鎭守社（八幡宮）
開基（知らす）中興開慶上人
末　寺（濃州方縣郡三谷鄕村）法花寺　（同山縣郡岩非村）延算寺

紀伊續風土記高野山之部　聖方　四谷

布袋莊（一幅畫非に一体の姬桶札あり）

同（太郎丸村）新光寺　同（村船國寺）

如來藏院
本堂本尊聖觀音　弘法大師
護摩堂本尊不動明王
僧　坊（桁八間　梁五間）　門（長屋造り）
開基（知らす）中興開慶上人
末　寺（勢州川曲郡神戸地子町）福泉院

上池院（堂の本院覺乘院の跡なり）
本　堂（桁五間　梁三間）本尊大日如來（春日の作）
護摩堂本尊不動明王
內道場本尊地藏菩薩
弘法大師の作大阪の住山中菜（鴻池の始祖なり）家に傳へて常に此地藏尊を信仰し供奉せり正保三正月兒疱瘡にて死せり父母哀歎す其夜夢に此尊現して告て曰く汝恐むことなかれ我加持して此兒を活生せしむ（しとて錫杖を以て打給ふと夢覺たりけるに兒の泣聲して實に蘇息せり衆驗肝に徹し二月二十一日に尊像を捧戴して當院に來り宥性阿遮梨を拜して薙髮し宗門と名く只此尊像を供奉するを事とせり慶安三寅年十二月五日死す
僧　坊（桁十二間　梁八間）　玄　關
表　門　通用門

倉庫

開基知らず中興圓慶上人

什物

後深草帝龍影一幅法燈國師の筆　短刀三條小鍛冶宗近の作

加藤重氏及嬬并石堂麟影三幅源空上人の筆

末寺紀州有田郡中原村草福寺　同村橋川観音寺

同村橋川圓福寺　同尾州海東郡今村観音寺

千藏院

本堂桁五間梁四間

本尊勢至菩薩

弘法大師の作脇士は阿彌陀佛(行基の作)なりけれは道俗疑ひ怪しみける元祿七年住持興慶江府に在るに五月十三日の夢に此尊告て曰く我往古より數百歳本尊たり何を今座位を改るやと曰て奇とす明日書札來るに菩薩を中尊とし如來を脇士とすること佛意に叶ひ難きに似たり故に吉日を擇らんて改て如來を本尊とせんと應驚き夢を感して書を以てこれを停む

護摩堂本尊不動明王　弘法大師畫形像自作

内道場本尊地藏菩薩

僧坊桁十七間梁十間　玄關

表門　通用門

倉庫二棟所

開基知らず中興圓慶上人

什物

曼荼羅二幅金胎後宇多院の筆

人物畫三幅對馬遠の筆　三寶荒神影一幅弘法大師の筆

福壽院

本堂桁五間梁三間本尊十一面觀音菅相丞の作

護摩堂本尊愛染明王

内道場本尊弘法大師

僧坊桁九間梁七間　門

倉庫

開基上に同し

末寺三州吉田不動院　同勢州鈴鹿郡岡田村西福寺

成就院今は廢亡す

善福院

本堂本尊彌勒菩薩

護摩堂本尊藥師如來

内道場本尊弘法大師

僧坊桁七間半梁五間

開基知らず中興圓慶上人

什物　花器

屏風一雙探幽の筆

地藏堂延命寺

本堂方五間本尊地藏菩薩弘法大師の作緣日三月十九日

護摩堂本尊不動明王智證大師の作弘法大師自作

僧坊桁七間梁五間　表門

通用門

開基弘法大師なり當寺本尊は世に引導地藏又は願の地藏尊といふ承和二年三月十九日大師自ら作らせ給ひて一宇を建立し爰に安置し給ふ是則當來の衆生往生の素懷を遂しめんとなり今に到り滿山の緇素奄逝の日必葬棺を此堂前に止む又大師入定を哀み願て眸を右邊に轉し給ふ其相好肉身の如し夫優頭刻檀の靈像は歩みを運んて世尊を迎ふとかや豈仰さらむや圓光は大師天の川辨財天に逗歩し擁護を乞ふに天女如意水精牛王の三珠を木盆に盛て與へ給ふに天女の從者是を惜みて歸途を追ひ一顆を乞ふ大師則ち水精珠を放擲し給ふ其より潤澤涌出し清流滔々たり俗に此所を瀧の尾といひ玉を惜める地を惜み坂といふ木盆は此尊の圓光とし玉は傳へて寺寶とす

什物

珠玉二顆由來條記に見へたり

大五鈷悉曇和尚より大師に附屬し給ひし故に御師來五鈷といふ

辨財天一幅弘法大師の筆　不動尊一幅上に同し

觀無量壽經一卷上に同し

末寺勢州川典郡神戸村隨龍院　同吉祥院

同清光院

寶幢院谷

光明院

本　堂（桁五間　梁四間）　本尊阿彌陀如來（安阿彌の作箱根山より出現）

護摩堂本尊不動明王（定朝法橋の作）　毘沙門天（運慶の作）

内道場本尊地藏菩薩（弘法大師の作古へ本堂の本尊なり）

僧　坊（桁十三間　梁九間半）　書　院（山水の畫　等渓の筆）

上　段（山水光信の筆）　玄　關（方二間）

表　門（唐門　造り）　中　門

通用門（長屋　造り）　倉　庫（二箇所）

鎮守社（烏枢沙摩明王）　禿　倉（前阿州太守家政の建廟を祀す國端彦大明神と稱す）

鐘　樓（方二間）　隔　室（桁四間　梁三間）

開基大進法橋行清は三井の長吏八條宮圓惠法親王の法弟なり嘉永二年親王（後白河院の御子なり）及ひ明雲大僧正（天台座主俗姓久我大倶納言顯通卿の子なり）に　後白河院の御所法住寺殿に在して木曾義仲の兵災に羅て薨し給ふ（嘉永二年十月十九日）爰に清也哀聲を含み悲戀を懷き尊棺を洛の東山に茶毘して其御舍利を當山に窆み草庵を營み長吏坊光明院と號す文龜の頃尾州蛭須賀小六正昭の息登山し第十一世道雄法印に隨從し薙染して法印實道と號し秘密の玄奥を探て當寺に住職す享祿の頃同姓正勝の舍弟正信は實道の法弟と成り常林と號す天正十六年前阿州太守家政父正勝追資のため同州名東村に於て百石の地を永く附して三寶物とす慶長年中由ありて家政入道し蓬庵と號し當院に閑居す同十九年住持快尊法印に示して一七箇日の間太元明王の護摩を修し利勝將軍を祈らしむに穢多崎の合戰の砌南方より馥々たる煙り來り敵兵亂れ破れて同姓至鎮軍功を現はせしとなん同年一宇燒失に依て家政再建す又古來より堂宇に卐字の紋を附けるに因て家政の紋を改め卐とす是子孫末葉に至て舊緣を忘れさらしめん爲とかや文祿の頃相州小田原の住士飯田仁左衛門尉道平（又は河野氏）獵遊のため幽谷に入りしに靈光あり其處を穿ち見るに彌陀の像を得たり感喜限りなく我家に荷負し來る或夜道平に告て曰く我を高野に送るへしと示現あらたなれは自ら守護し快尊の德行を慕ふて此院に安置す今本堂の如來是なり

什　物

毘沙門天（一幀　弘法大師の筆前阿州太守蓬庵入道年來持念の尊像なり永く當院に附して若干の料を寄せて國家安穩を祈らしむ）

太元明王（一幀　弘法大師の筆阿波太守玉鋼の寄附來由緣記に見へたり）

五大明王（一軸　弘法大師の筆道州久野入道宗安寄附す今勢州田丸の城主也）

彌陀名號（一軸　膳谷入道直實の筆　濃州稻田九郎兵衛寄附）

火天畫（一幀　弘法大師の筆阿州大龍寺に於て止火のため染筆し給ふといふ）

摩多對文（一卷　眞雅僧正の筆）　觀　音（一幀　牧溪の筆）

山水繪（一幀　周茂叔の筆）　黑　跡（一軸　近衛信尹公の筆）

花鳥畫（三幅物　書舟の筆）　虎　繪（二幀　對村の筆）

書　札（小早川隆景の筆）　太　刀（二腰　銘粟田口阿州至鎮の所帶）

佛心院殿

本　堂（護摩堂附　桁四間　梁六間半）　本尊大日如來（定朝法橋の作）

護摩堂本尊不動明王（智證大師の作）　地藏菩薩（弘法大師の作）

内道場本尊弘法大師

僧　坊（桁十六間　梁九間半）　表　門

通用門　倉　庫

鎮守社（辨財天）

開基有雅法印（俗姓知らず寛治元年六月五日寂す）中興應遍上人の時山名伊豆守時氏一字再建す

什　物

書　札（尼子修理太夫の筆）　水　指（茂右衛門の作）

常慶院

本　堂（護摩堂附　桁七間半　梁五間半）　本尊阿彌陀如來（千體佛圓朗す）

護摩堂本尊不動明王　弘法大師

内道場本尊地藏菩薩

僧　坊（桁十三間　梁八間半）　表　門

通用門　倉　庫（二箇所）

鎮守社（辨財天）　鐘　樓（方一間半）

隔　室（桁五間　梁三間）

開基法花房（俗姓知らず大治二年二月十日卯刻寂す）

什　物

十遍名號阿彌陀如來

弘法大師の筆　鼓峰天皇の勅に依て弘法大師染筆し給ふ尊像なり寶文六年　叡覽に備へ奉るに　御信の餘り寶燈を下し給はる（今に寺寶とす）毎歲七月十五日大衆を請して法樂を營み貧賤罪見を免し結緣せしむ

阿　字（一軸　恵朱和尚の筆）　弘法大師影（一幀　眞如親王の筆石油の御眼なり）

末　寺（濃州恵那郡苗木）龍王院　同佐々羅木村　神護寺

同野村（爭敢）遍照院　同飯羽間村　天王院

同下飯羽間村　福生院　同寺川戸村　清光院

上珠院

本堂本尊大日如來　五大明王瀧川一益の守護本尊

愛染明王不動明王香合の内に安置木俵土佐守横守勝の守護本尊

内道場本尊弘法大師　大黒天弘法大師の作

阿彌陀如來黄金の鍍像なり柴田修理大夫勝家持念

僧　坊桁十三間梁八間　表　門四ツ槻燈籠四方唐破風なり

通用門　倉　庫二箇所

鎮守社辨財天

開基祐全阿遮梨姓族知らず當院は北條家一宇建立し幾許の領地を寄附ありしとかや其後牧野内匠頭信成再興してより牧野家檀契深し

什　物

佛藏院今は廢亡す

寶宗院同上〃

蓮藏院客坊なり

阿彌陀如來中將姫の作

屏　風一雙元信の筆

書　札北條家代々の自筆

瀧川田一益の守護本尊

牧野一帖

蓮花谷 往古花折院谷といふ

四〇四

誓願院

本　堂桁五間梁三間

本尊阿彌陀如來

春日の伴京都三條に荒五郎といひし男あり或時由なく女を書せし其罪を觀せんとて發心遂染し當院に住す其頃發心者來りて同しふ住み物語するに荒五郎書せし女の夫なりけれは互に因縁を感し並心堅固に勸めける此山三條殿の聽に逸し感慮ありて當院を修補し持念の阿彌陀如來を安置し本尊と成し給ふ此如來は京師誓願寺の本尊彫刻の時佛工春日同しき御衣木を以て作りたる故に誓願院と號くとなり其後三位頼政一宇再建す

護摩堂本尊不動明王弘法大師の作

内道場本尊弘法大師

僧　坊桁十四間梁九間　門長屋造り

倉　庫　鎮守社稲荷大明神

開基俊海僧都俗姓知らず中興明遍上人は藤原通憲卿の息なり始は東大寺に於て出家し十九歲にして此山に登ると云委しく元享釋書に見へたり

什　物

十六善神一帖中將姫の筆　觀音一帖光真主の筆

鳴　弦一帖三位頼政の筆

常住光院

本　堂桁六間梁五間　本尊阿彌陀如來

内道場本尊藥師如來　不動明王弘法大師の作

僧　坊桁十五間梁十一間　表　門

通用門長屋造り　倉　庫

鎮守社稲荷明神

開基俊海僧都中興明遍上人行狀誓願院に見えたり當院は　神君の御由緒ありて不時獨禮の格式を賜はる

什　物

色　紙神君御筆御筆なり

旅なれは雲のうへなる山こえて

袖のしたにそ月をやとせる

屏　風一雙狩野古法眼の筆　同　一雙元信の筆

蛇　骨往昔此山に雅蛇あり大師是を降伏し給ふに蛇の形體碎亡し唯此頭骨のみ殘りしとなり蛇柳の因由も亦是なり

末　寺伊州山田郡阿波谷慈眼寺

明泉院

本　堂桁五間半梁三間半　本尊阿彌陀如來運慶の作

紀伊續風土記高野山之部二　翠方　蓮花谷

護摩堂本尊不動明王智證大師の作

内道場本尊弘法大師　釋迦佛圓澤相金の鍍像

僧　坊桁十四間梁八間半　玄　關

表　門　通用門長屋造り

倉　庫　鎮守社辨財天

開基明遍上人行狀上に見へたり

什　物

阿彌陀經明遍上人の筆　日輪大師雅譜共に弘法大師の筆

天狗獨懷由來知らず

末　寺勢州鈴鹿郡和無田村觀音寺　同　紀州日高郡彌谷村寶生寺

寶泉院今は廢亡す

十二光院上に同し

滿谷院上に同し

祥吉院上に同し

大鏡院阿字觀堂と云

本堂本尊大日如來弘法大師の作

護摩堂本尊不動明王上に同し　阿彌陀如來惠心僧都の作

僧　坊桁七間梁五間　鐘　樓

開基眞雅僧正者此地に草庵を結ひ阿字觀法を修し給ふ故に阿字觀堂といふ近頃堂宇廢して本尊及ひ什物奉雲院に移す

紀伊續風土記第五輯 完結

第五輯完結

明治四十四年二月二十日印刷
明治四十四年二月廿八日發行

編纂兼發行者　和歌山縣神職取締所

印刷者　京都市下京區三條通御幸町辨慶石町　大谷仁兵衛

發行所　帝國地方行政學會出版部　京都市下京區三條通御幸町五十四番地

9U52

331
10
Ⓜ

025284-004-6

331-10

紀伊続風土記　第2－5輯

仁井田　好古／等編

4冊

M43-44

ADC-2704